



Ju-Ju

～カンボジア・村びと共生プロジェクト～



背景と目的

サンボープレイクック遺跡（以下S.P.K.遺跡）はアンコールワットよりも古い7世紀に建立され、歴史的価値が高く、世界遺産登録が間近とされている。世界遺産登録が近づくにつれて、国内外から観光客が訪れるようになり、周辺の村では観光地化が進められている。

それに伴い、S.P.K.遺跡周辺の村ではゴミ問題や伝統継承問題が表面化しつつある。本活動では遺跡周辺の子もたちと、観光地化による課題を学び、より良い未来の村の姿を共に考え、活動を通して学んだことを多くの人と共有することを目的としている。

これらの活動を通して、現地の人々自身が観光地化の展望を描き、その姿を実現できるようサポートしていく。

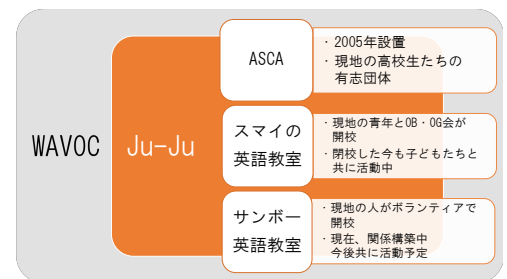
方向性と理念

私たちは、S.P.K.遺跡周辺に住む子どもたちに身の回りで起きている問題について考え直してもらうため、「きっかけづくり」というキーワードを掲げている。「きっかけづくり」には、Ju-Juという団体の由来ともなっている現地の子もたちとの受ける・授けるを通して、身の回りの問題を意識して欲しいという思いが込められている。

村のこれからに寄り添いながら、よりよい未来を一緒に考え、活動をしていく。これは、現地の子もたちと対等な関係である大学生の私たちだからこそ、できることではないだろうか。



実施体制



活動例（※渡航ごとにプロジェクトの変更があります。）

交流会プロジェクト

交流会は現地の子もたちとJu-Juメンバーの顔合わせをして親睦を図る。その上で様々なプロジェクトに積極的に参加してもらうことを、目的にして実施している。

特に互いの名前をしっかりと覚えることを重要視している。またバスケットボールなど体を使った活動を通して、より仲良くなれるように、工夫して交流会を計画している。



ゴミプロジェクト

S.P.K.遺跡の周辺には現在たくさんのゴミが落ちている。S.P.K.遺跡の世界遺産登録の動きに伴い観光地化が進み、観光客が増加するとゴミ問題がますます浮き彫りになる。

そこで遺跡周辺の子もたちとゴミ拾い活動やポスター作りなどのゴミに関するプロジェクトを行っている。活動を通して村人がゴミ問題を再認識、再考するきっかけとなることを目指している。



伝統プロジェクト

伝統文化の継承世代である現地の子供たちと共にその重要性を学び、自国の伝統文化を再認識する機会とすることを目的として活動を行っている。

2016年春渡航では、村びとからカンボジアの古くから伝わる神話・言い伝えを聞くというフィールドワークを行い、聞いた話をもとに紙芝居を作成・発表した。またディスカッションを行い、伝統を守ることの重要性を考えた。



今後の展開

働きかける世代を広げ、活動を大きくしていく。

今までは遺跡周辺の子も達へ働きかけていたが、今後は大人達へのアプローチも試み、遺跡周辺の村びと達全員に寄り添える活動をする。

S.P.K.遺跡が世界遺産登録間近と言われる中で、村びと達がどのように行動するかを問いかけ、寄り添いながら支援していく。

活動実績

- ・外務省の日・ASEAN友好記念事業 採択
- ・在カンボジア日本大使館の日・カンボジア友好記念事業に採択
- ・公益財団法人 かめのり財団助成事業 採択